

# 台風の被害に備えよう！



毎年甚大な被害をもたらす台風ですが、他の災害と違い、進路や規模がある程度予測でき、対策がとりやすく被害の軽減を図れます。

今回は天気予報などで使われる用語の意味と、台風により発生しやすい災害を紹介します。台風のことをよく知り対策を立てましょう。

## 台風とは

「中心付近の最大風速が17メートル毎秒（※以下、m/Sという）以上」の熱帯性低気圧と定義されています。

## 台風の大きさ

☑「大型」：

強風域（風速15m/S以上となる半径）500キロ〜800キロ未満

☑「非常に大きい」：

強風域800キロ以上

☑「強い」：

看板など飛来物で負傷するおそれがある。車の運転が困難になる。（最大風速33m/S以上〜44m/S未満）

☑「非常に強い」：

屋外での行動は極めて危険。走行中のトラックが横転する。（最大風速44m/S以上〜54m/S未満）

☑「猛烈な」：

多くの樹木が倒れる。ブロック壁が倒壊する。住家が倒壊する。（最大風速54m/S以上）



## 台風の接近

台風が日本の海岸線300キロ以内に入った場合「日本に接近した台風」と呼びます。

## 発生しやすい災害

☑雨：

●渦性降雨⇨台風を中心付近では激しい雨が降ります。

●地形性降雨⇨山地に向かって気流が生じるような地形では大雨になりやすい。

●前線の発達⇨秋雨前線、梅雨前線等を刺激して大雨をもたらします。

☑風：暴風、強風を生じる。

☑波：高波やうねりを生じる。

☑高潮：強風による吹き寄せや気圧低下によって高潮を生じる。

☑雷：雲が発達する割には台風本体接近時には雷を伴うことは少ない。間接的な雷雨が発生することがある。進行方向の左側で比較的发生しやすい。

☑竜巻：関連性は解明されていないが、台風接近により竜巻が発生することがある。

☑その他：台風が日本海側を通った時の日本海側や、台風が太平洋側を通り離れていく時の太平洋側でフェーン現象が発生しやすい、乾燥した熱風による火災や急激な気温上昇による雪崩なども起こりやすい。



## 台風の影響

台風は社会的に大きな影響をおよぼします。

☑交通機関：航空機やフェリ

ー、電車やバスが運行を見合わせます。時間帯によっては多くの帰宅困難者が生じます。

☑公衆施設等：公共機関、レジャー施設、サービスマンなどは閉店を早めたり、休業することがあります。

☑イベント等：屋内で行われる催し物でも観客の安全を考慮し中止となることがあります。

## 台風豆知識

①台風がもつとも多かった年は、1967年の39個で、少なかつた年は2010年の10個となります。

台風の発生がもつとも早かつたのは1979年の1月2日、遅かつたのは2000年の12月30日です。

瞬間最大風速では1966年の18号が85.3m/S（宮古島で観測）となっています。（1951年〜2013年の統計資料から）

②台風の号数：日本では発生した順に番号付けします。気象庁などでは西暦の下2桁と号数を合わせて「台風8510」（1985年の10号）と表記します。

海外では男性名、女性名をA、B、Cのアルファベットの順番で表す国もあります。



☎ 問 消防本部指令課 67-1127